

高齢者を取り巻く状況

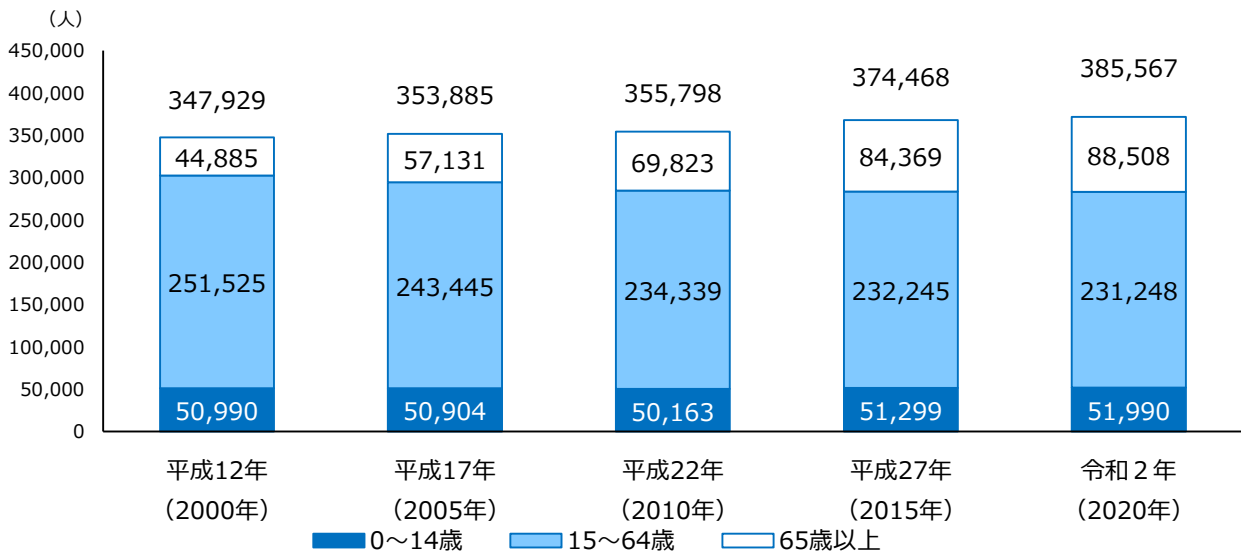
(1) 20年間ににおける人口の推移 (国勢調査)

① 年齢3区分別人口の推移

全国的に人口が減少に転じている中、本市の人口は年々増加しており、令和2年で385,567人と、この20年間で1.1倍となっています。

年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口は横ばい、15～64歳の生産年齢人口は減少している中、高齢者人口は大きく増加しており、令和2年で88,508人と、この20年間で2倍近くまで増加しています。

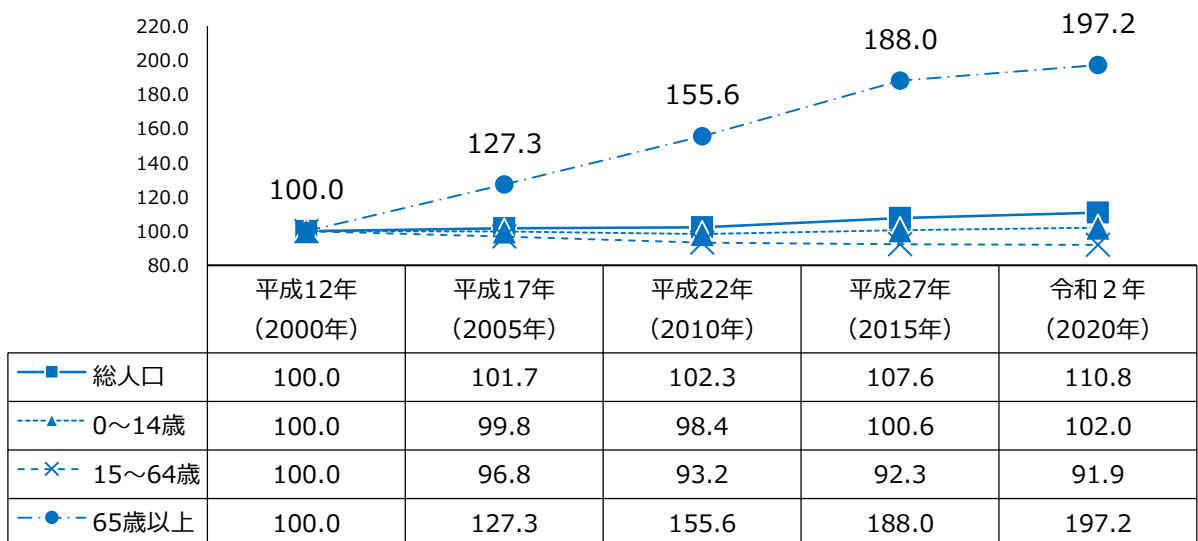
【年齢3区分別人口の推移】



資料：各年国勢調査

※年齢不詳人口は少数のため、表記していません。総人口は年齢不詳人口を含んでいます。

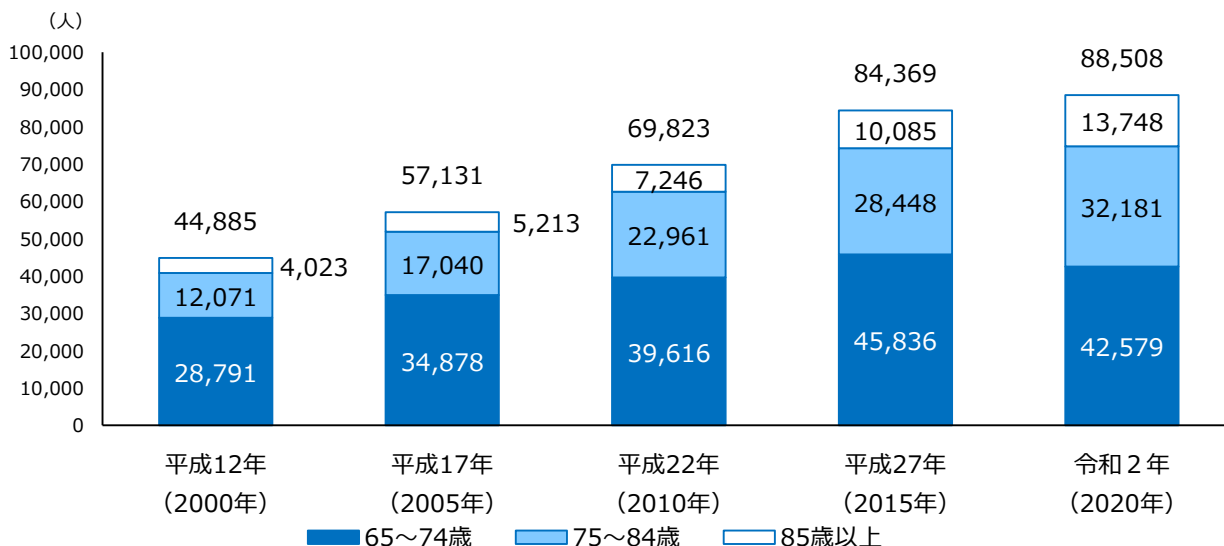
【平成12年（2000年）を100.0とした人口指数】



資料：各年国勢調査

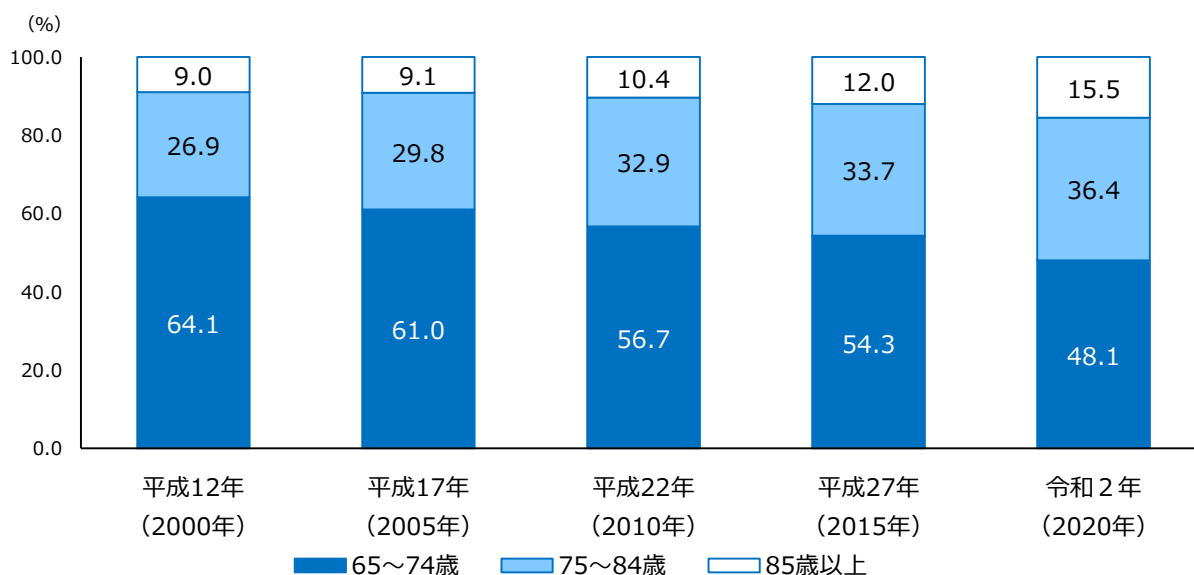
高齢者人口の構成をみると、平成12年は全体の64.1%を65～74歳の前期高齢者が占めていましたが、令和2年では75歳以上の後期高齢者が全体の51.9%を占めており、うち15.5%が85歳以上の高齢者となっています。

【高齢者人口の推移】



資料：各年国勢調査

【高齢者人口の構成割合の推移】

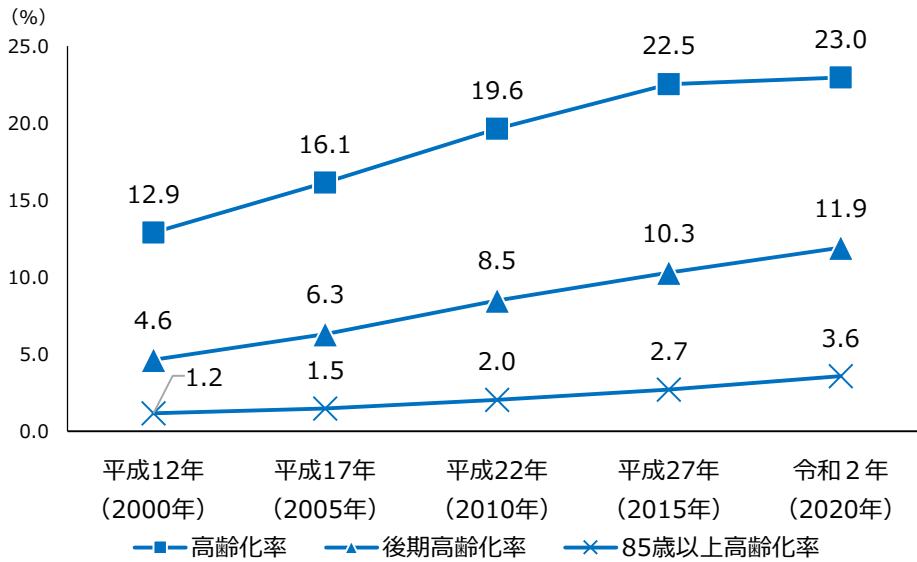


資料：各年国勢調査

高齢化率は平成12年で12.9%、令和2年で23.0%と、この20年で10.1ポイント上昇していますが、平成27年から令和2年にかけては0.5ポイントの上昇にとどまっています。

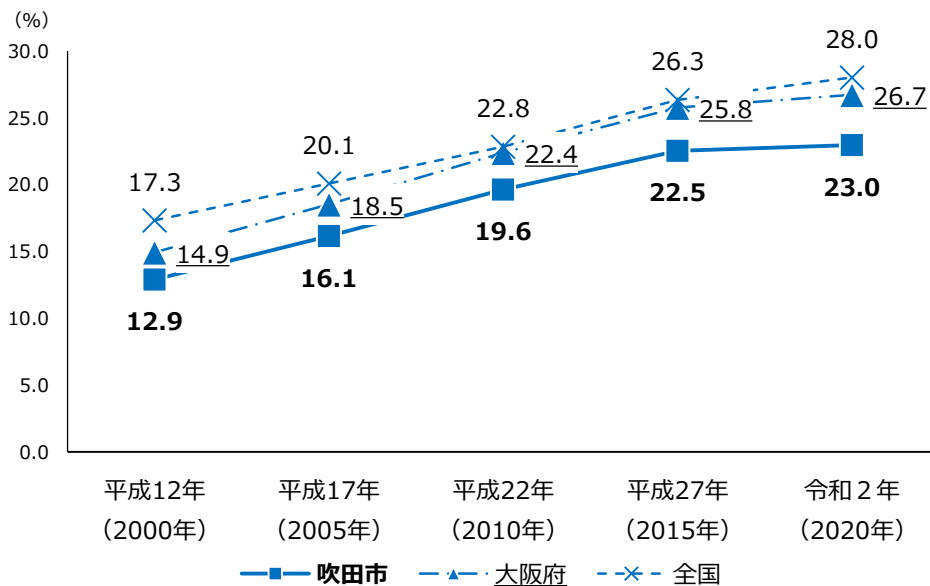
本市の高齢化率・後期高齢化率は全国・大阪府より低くなっています。

【高齢化率・後期高齢化率・85歳以上高齢化率の推移】



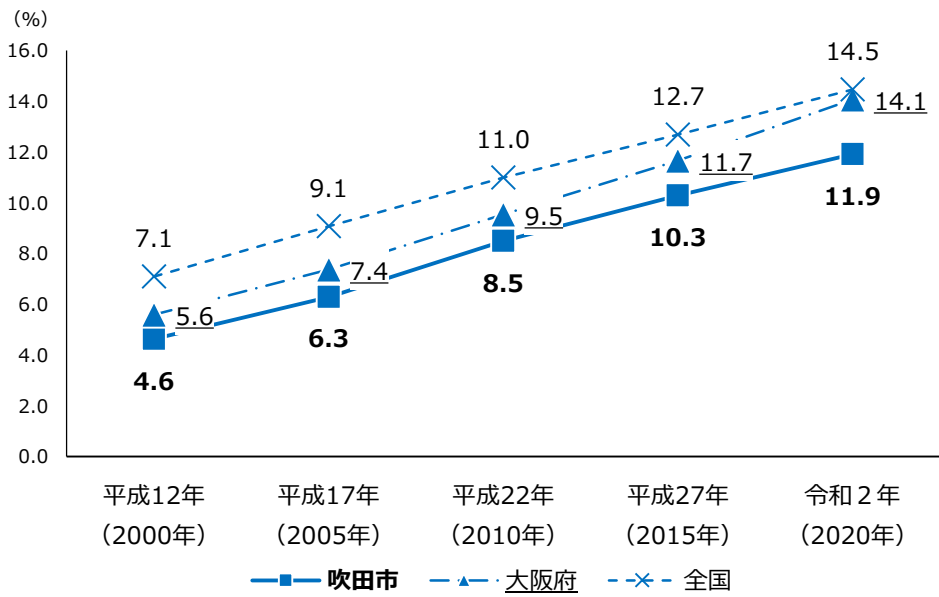
資料：各年国勢調査

【高齢化率の推移（全国・大阪府との比較）】



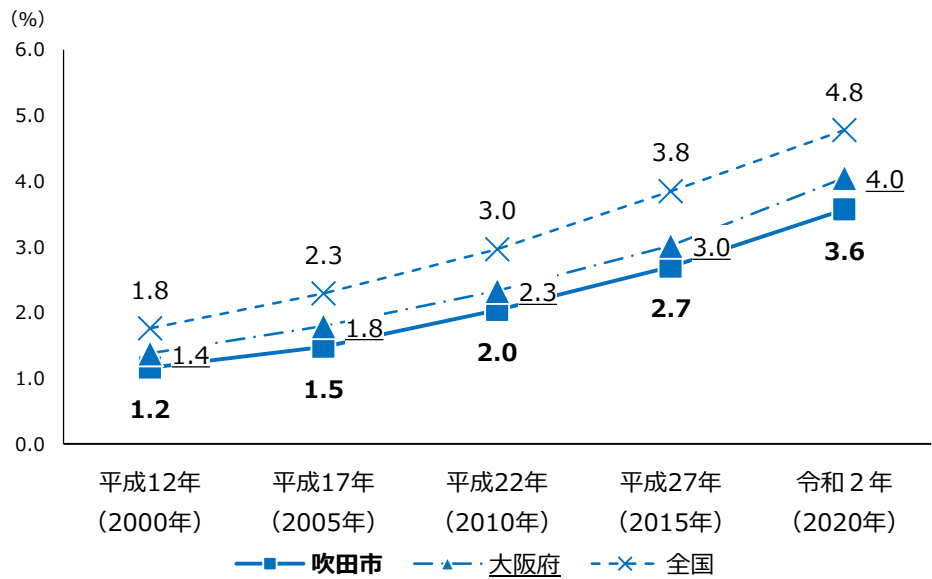
資料：各年国勢調査

【後期高齢化率（75歳以上）の推移（全国・大阪府との比較）】



資料：各年国勢調査

【85歳以上高齢化率の推移（全国・大阪府との比較）】



資料：各年国勢調査

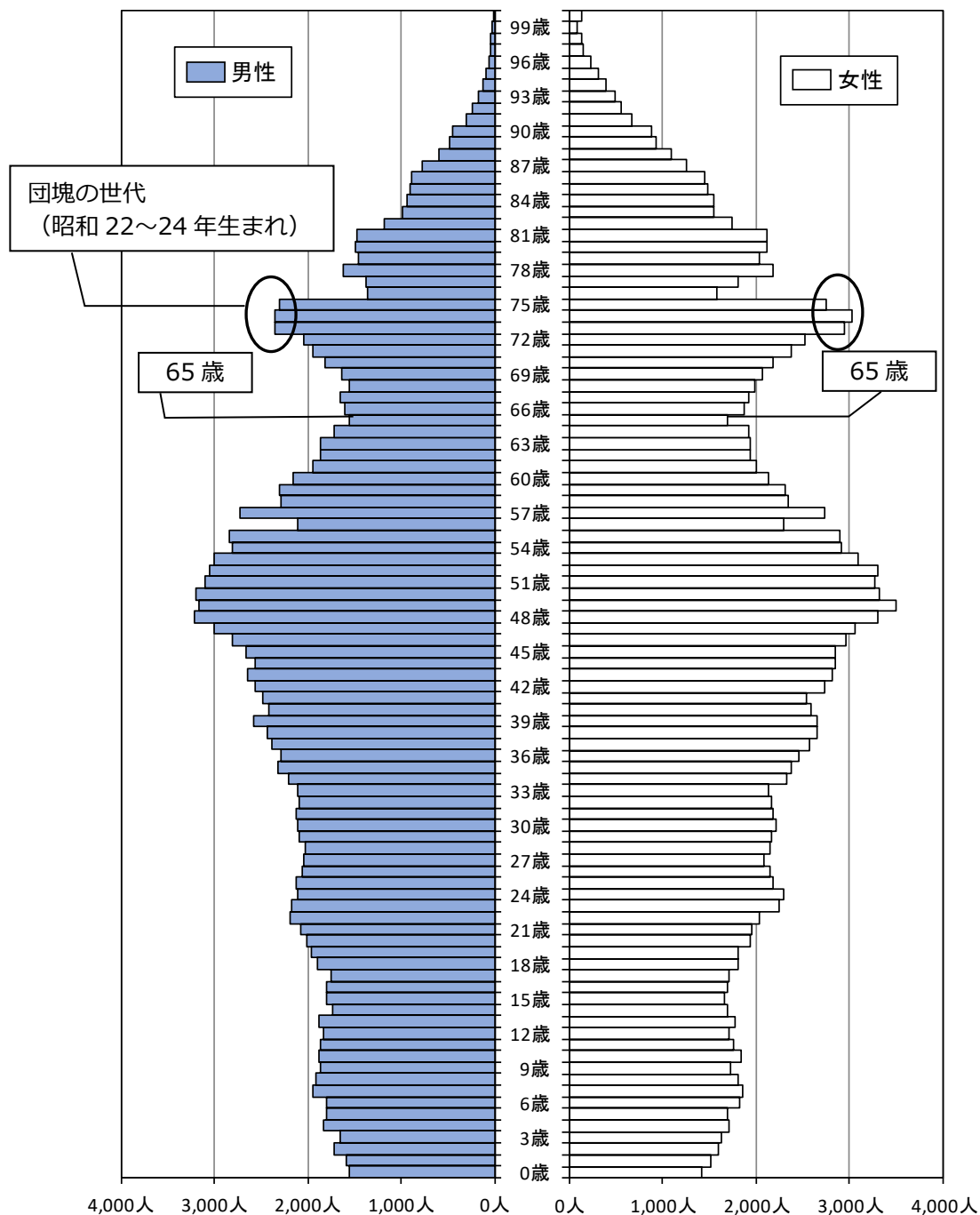
(2) 近年の人口の推移 (住民基本台帳)

①人口ピラミッド【令和4年(2022年)9月末現在】

令和4年9月末の人口は381,024人となっています。

団塊の世代が今後3年間で後期高齢期を迎えるため、概ね令和7年(2025年)まで後期高齢者が大きく増えると考えられます。

令和4年9月末で高齢期を迎えた人は最も少なく、人口構成上、今後高齢期を迎える人は徐々に増えていくと考えられます。



資料：住民基本台帳 (令和4年9月末現在)

②人口の推移

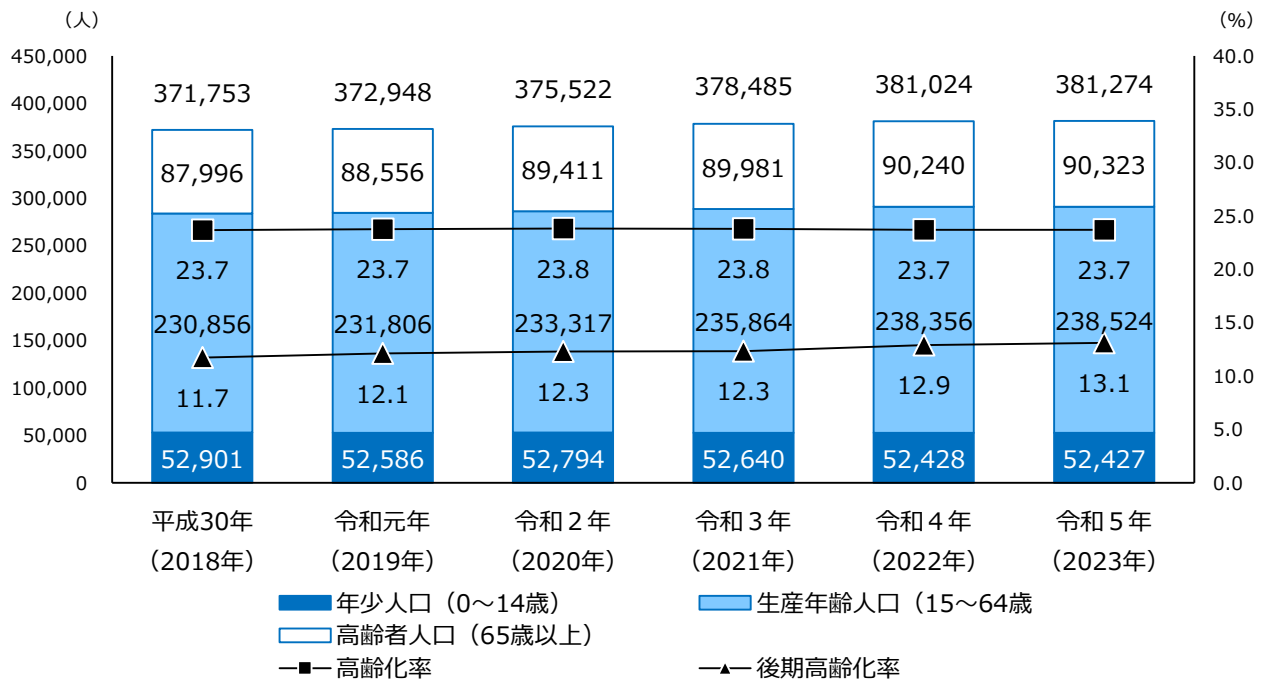
総人口は令和5年1月末で381,274人と、年々増加しています。

高齢者人口は令和5年1月末で90,323人と、年々増加し、高齢化率は23.7%、後期高齢化率は13.1%となっています。

【年齢別人口の推移】

単位：人

	第7期			第8期		
	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)
総人口	371,753	372,948	375,522	378,485	381,024	381,274
年少人口 (0~14歳)	52,901	52,586	52,794	52,640	52,428	52,427
生産年齢人口 (15~64歳)	230,856	231,806	233,317	235,864	238,356	238,524
40~64歳	126,238	127,308	128,966	130,424	132,038	132,430
高齢者人口 (65歳以上)	87,996	88,556	89,411	89,981	90,240	90,323
65~74歳	44,390	43,397	43,225	43,303	41,141	40,383
75~84歳	31,464	32,391	32,465	31,961	33,617	34,165
85歳以上	12,142	12,768	13,721	14,717	15,482	15,775
高齢化率	23.7%	23.7%	23.8%	23.8%	23.7%	23.7%
後期高齢化率	11.7%	12.1%	12.3%	12.3%	12.9%	13.1%



資料：住民基本台帳（各年9月末現在）※令和5年は1月末現在

③高齢者人口の推移

高齢者人口を年齢別にみると、65～74歳の前期高齢者は令和4年に減少に転じています。一方、75～84歳・85歳以上の後期高齢者は年々増加しています。

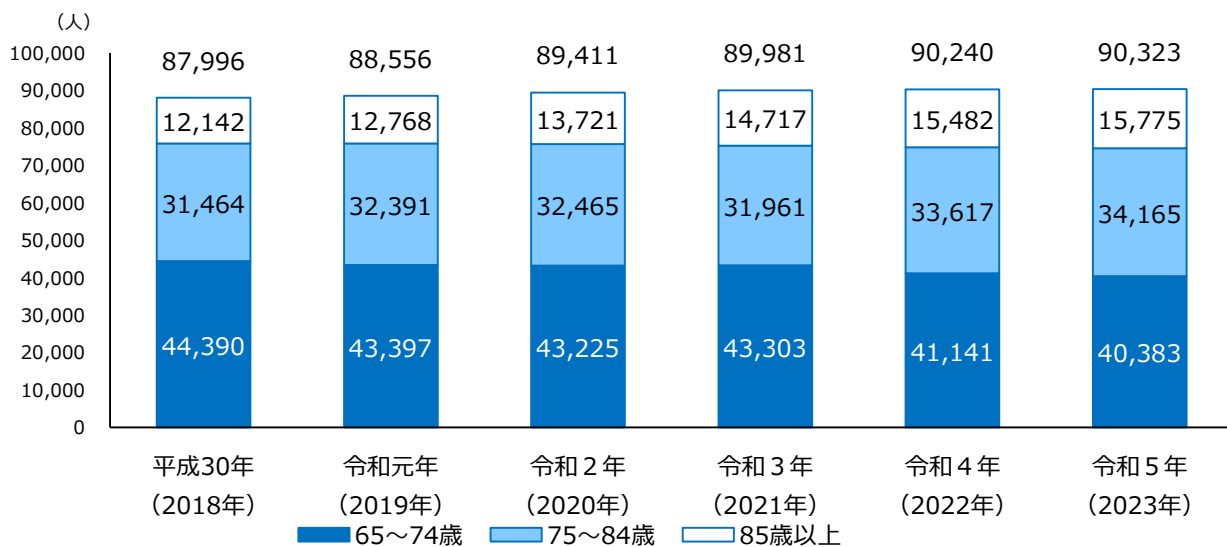
構成割合をみると、令和元年に75歳以上の後期高齢者割合が65～74歳の前期高齢者割合を上回り、令和5年で55.3%となっています。

【年齢別高齢者人口と構成割合の推移】

単位：人、%

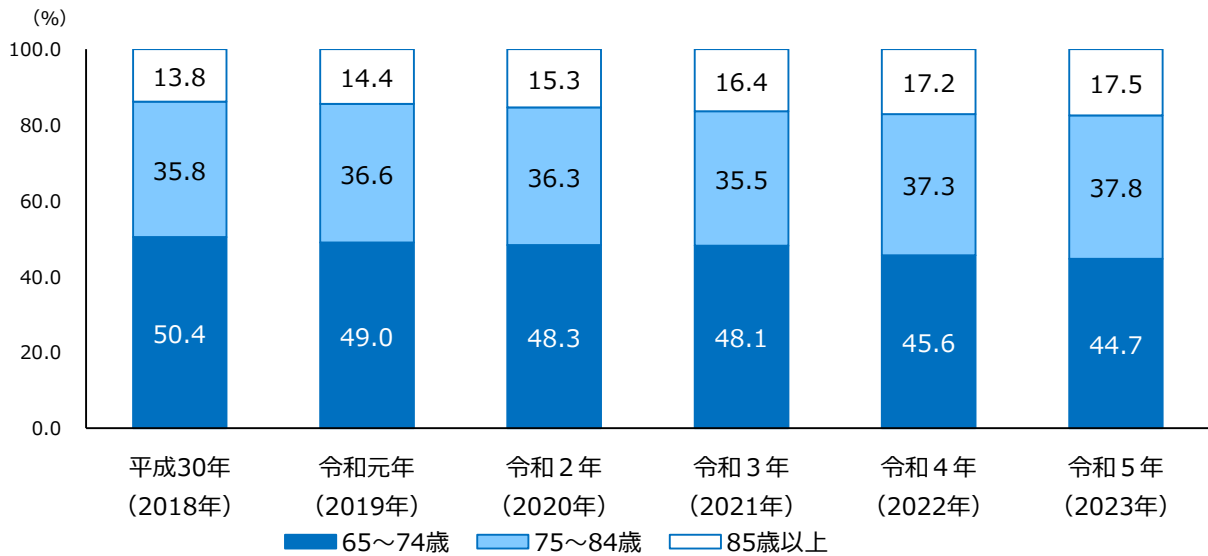
		第7期			第8期		
		平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)
人数 (人)	高齢者人口(65歳以上)	87,996	88,556	89,411	89,981	90,240	90,323
	65～74歳	44,390	43,397	43,225	43,303	41,141	40,383
	75歳以上	43,606	45,159	46,186	46,678	49,099	49,940
	75～84歳	31,464	32,391	32,465	31,961	33,617	34,165
	85歳以上	12,142	12,768	13,721	14,717	15,482	15,775
構成割合 (%)	高齢者人口(65歳以上)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	65～74歳	50.4	49.0	48.3	48.1	45.6	44.7
	75歳以上	49.6	51.0	51.7	51.9	54.4	55.3
	75～84歳	35.8	36.6	36.3	35.5	37.3	37.8
	85歳以上	13.8	14.4	15.3	16.4	17.2	17.5

【年齢別高齢者人口の推移】



資料：住民基本台帳（各年9月末現在）※令和5年は1月末現在

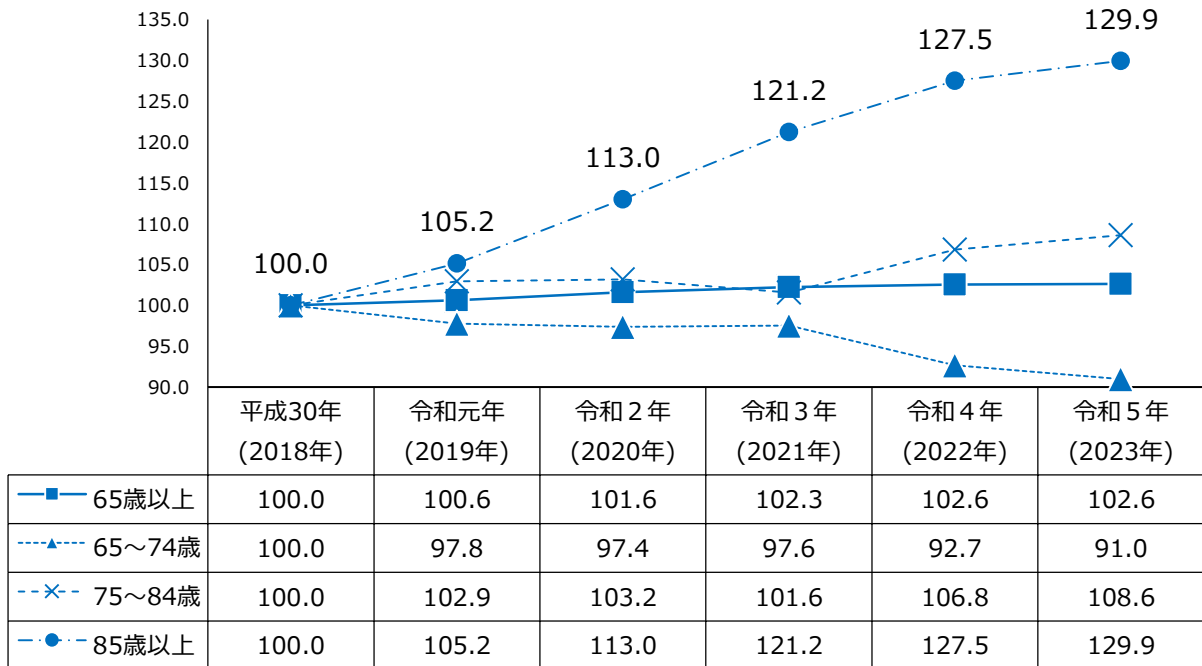
【年齢別高齢者人口構成割合の推移】



資料：住民基本台帳（各年9月末現在）※令和5年は1月末現在

平成30年を100.0とした人口指数をみると、65歳以上高齢者はほぼ横ばいとなっている中、65～74歳の前期高齢者は減少傾向にある一方で、75歳以上の後期高齢者は増加しています。特に85歳以上高齢者は平成30年から令和5年にかけて約1.3倍と、大きく増加しています。

【平成30年を100.0とした高齢者人口指数】



資料：住民基本台帳（各年9月末現在）※令和5年は1月末現在

(3) 世帯の状況

①一般世帯数、高齢者のいる世帯の推移

一般世帯数は令和2年で179,962世帯と年々増加しています。

うち高齢者のいる世帯も年々増加しており、令和2年で58,226世帯となっています。一般世帯に占める高齢者世帯の割合は令和2年で32.4%と、平成27年から令和2年にかけてわずかに減少しています。

本市の高齢者のいる世帯の割合は全国・大阪府に比べて低くなっています。

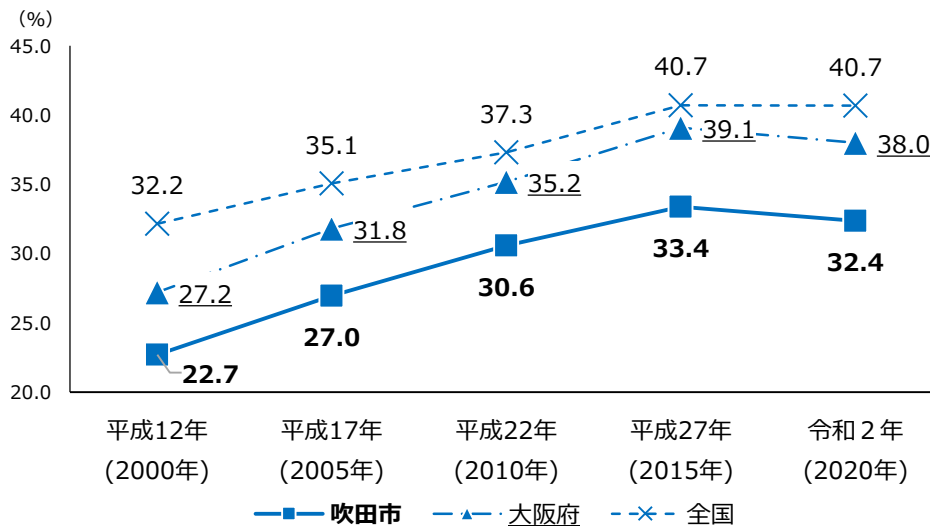
【一般世帯数、高齢者のいる世帯の推移】

単位：世帯、%

		平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
一般世帯数	世帯数	141,340	147,242	154,587	168,363	179,962
	割合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
高齢者のいる世帯	世帯数	32,098	39,696	47,273	56,197	58,226
	割合	22.7	27.0	30.6	33.4	32.4
うち高齢者単身世帯	世帯数	8,317	11,337	14,539	18,324	19,773
	割合	5.9	7.7	9.4	10.9	11.0
うち高齢者夫婦のみ世帯 (夫婦ともに65歳以上)	世帯数	7,311	9,979	12,592	15,605	17,178
	割合	5.2	6.8	8.1	9.3	9.5
その他一般世帯	世帯数	109,242	107,546	107,314	112,166	121,736
	割合	77.3	73.0	69.4	66.6	67.6
大阪府高齢者のいる世帯	割合	27.2	31.8	35.2	39.1	38.0
全国高齢者のいる世帯	割合	32.2	35.1	37.3	40.7	40.7

資料：各年国勢調査

【高齢者のいる世帯割合の推移（全国・大阪府との比較）】



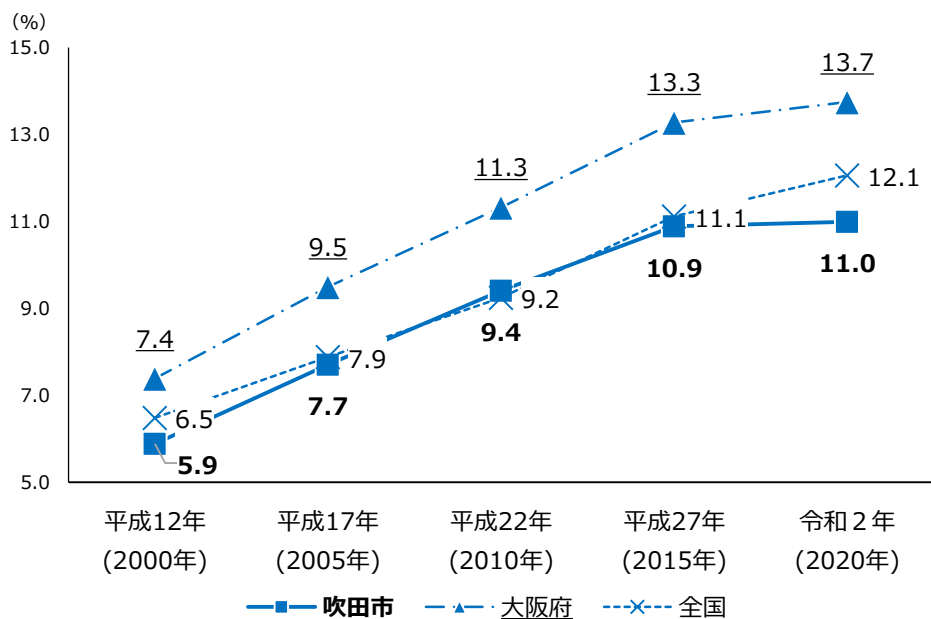
資料：各年国勢調査

②高齡者単身世帯割合、高齡者夫婦のみ世帯割合の推移

高齡者単身世帯割合の推移をみると、令和2年で11.0%と、平成27年までは大きく増加してきましたが、平成27年から令和2年にかけてほぼ横ばいとなっています。全国・大阪府より高齡者単身世帯割合は低くなっています。

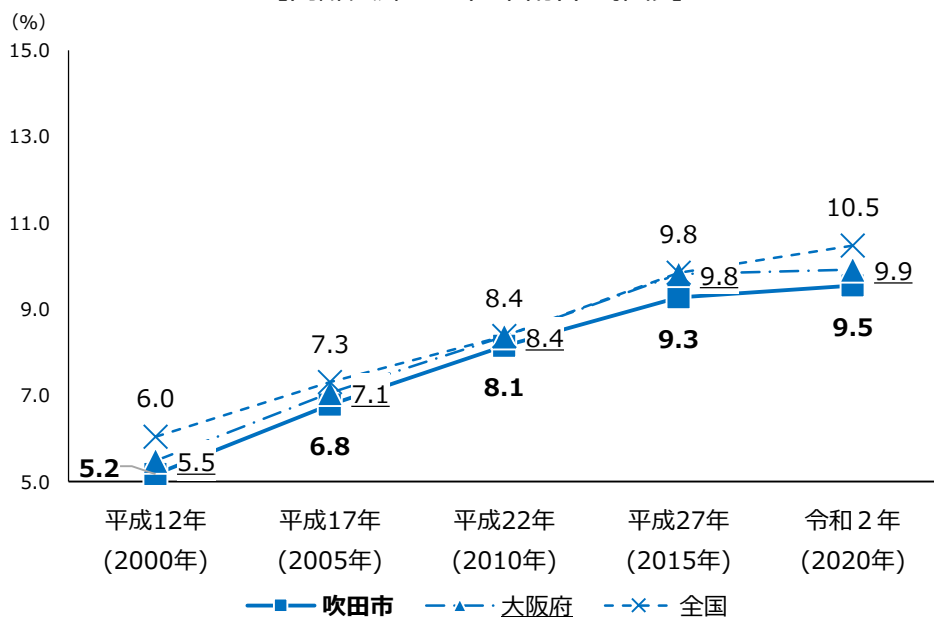
高齡者夫婦のみ世帯は令和2年で9.5%と、高齡者単身世帯と同様に平成27年から令和2年にかけてほぼ横ばい、全国・大阪府より低くなっています。

【高齡者単身世帯割合の推移】



資料：各年国勢調査

【高齡夫婦のみ世帯割合の推移】



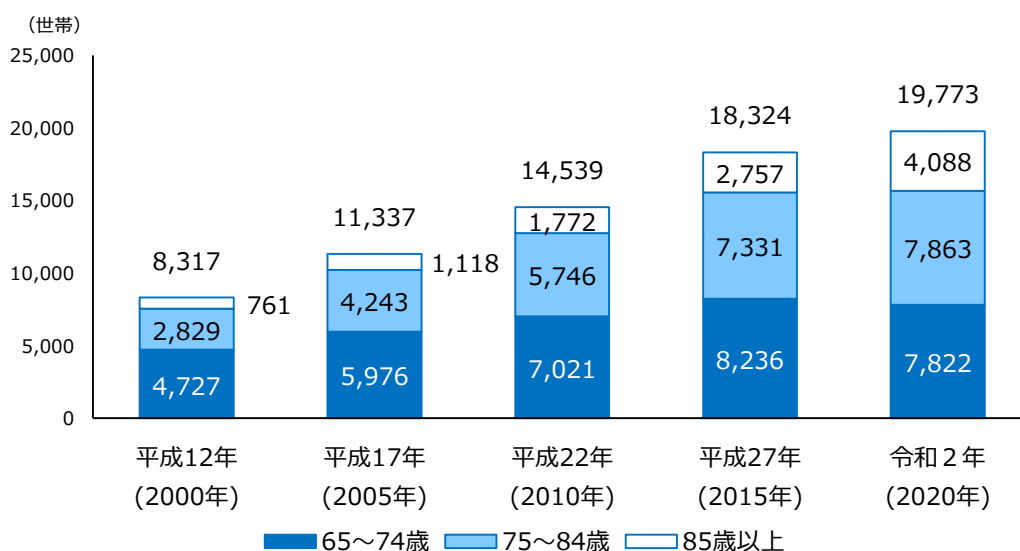
資料：各年国勢調査

③年齢別高齢者単身世帯の推移

年齢別に高齢者単身世帯をみると、65～74歳の前期高齢者は平成27年から令和2年にかけて減少していますが、75歳以上の後期高齢者は年々増加しています。

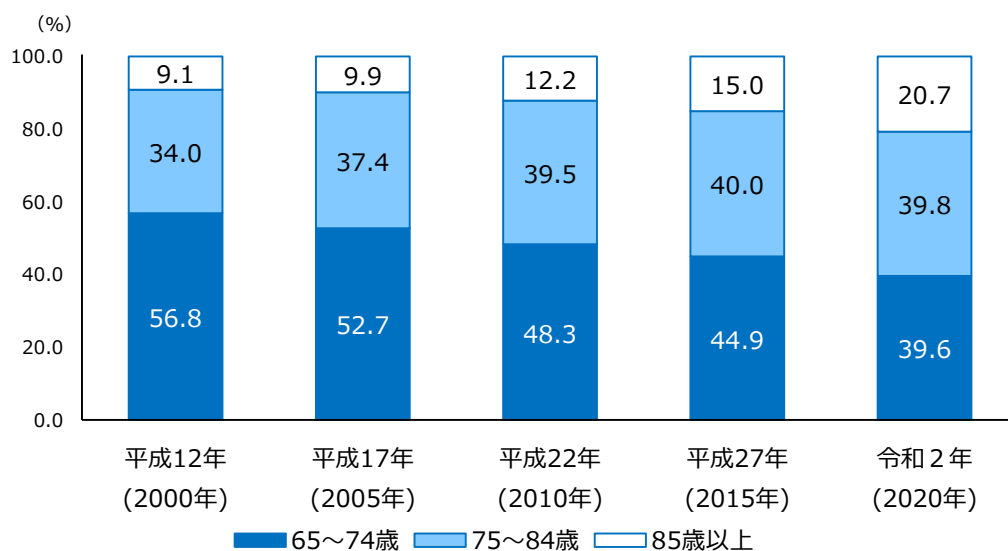
世帯構成割合をみると、平成22年で75歳以上の単身世帯が半数を超え、令和2年では6割を占めています。85歳以上の単身世帯は令和2年で2割となっています。

【年齢別高齢者単身世帯の推移】



資料：各年国勢調査

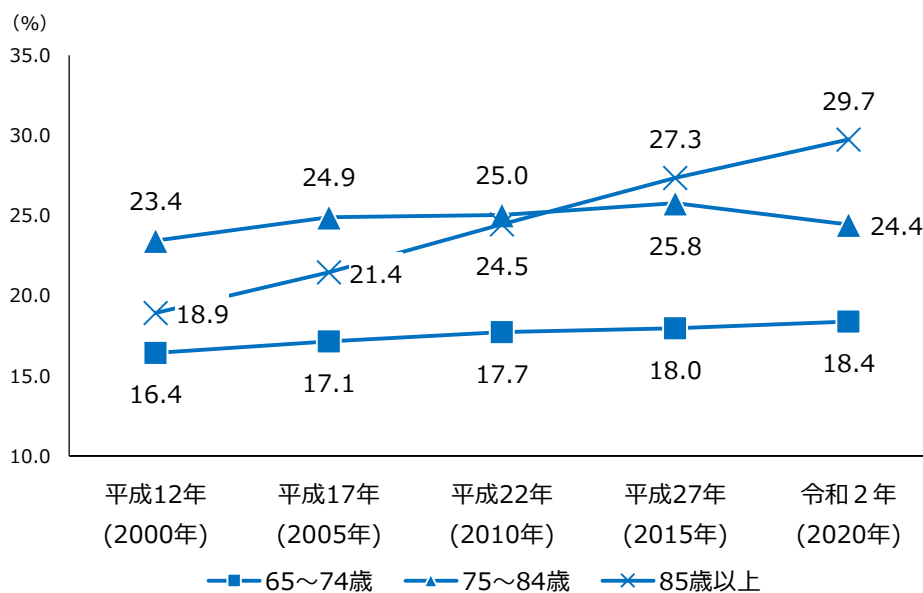
【年齢別高齢者単身世帯構成割合の推移】



資料：各年国勢調査

高齢者単身世帯率をみると、75～84歳は増減していますが、65～74歳の前期高齢者及び85歳以上の高齢者において単身世帯率が増加しています。特に85歳以上の高齢者は平成12年の18.9%が令和2年で29.7%と、この20年で10.8ポイント増加しています。

【年齢別高齢者単身世帯率※の推移】



資料：各年国勢調査

※上記の高齢者単身世帯率は「高齢者単身世帯数÷高齢者人口」により算出しています。

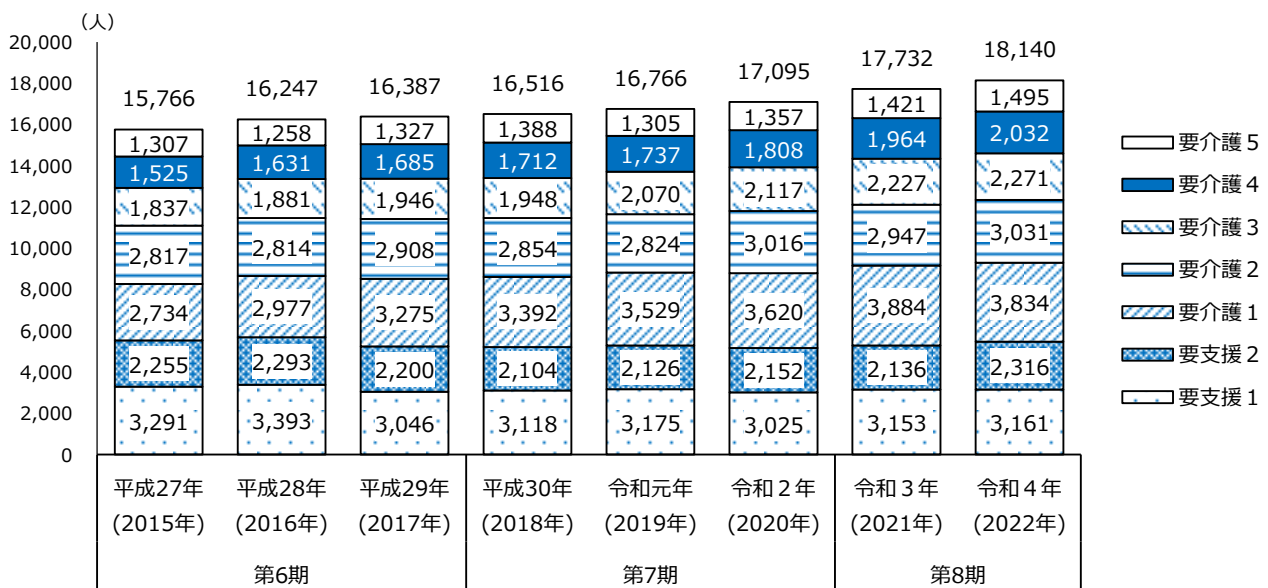
(4) 要支援・要介護認定者の状況

① 要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数は年々増加しており、令和4年で18,140人となっています。令和4年を要介護度別にみると、要介護1が3,834人（構成比21.1%）で最も多く、次いで要支援1が3,161人（構成比17.4%）となっています。

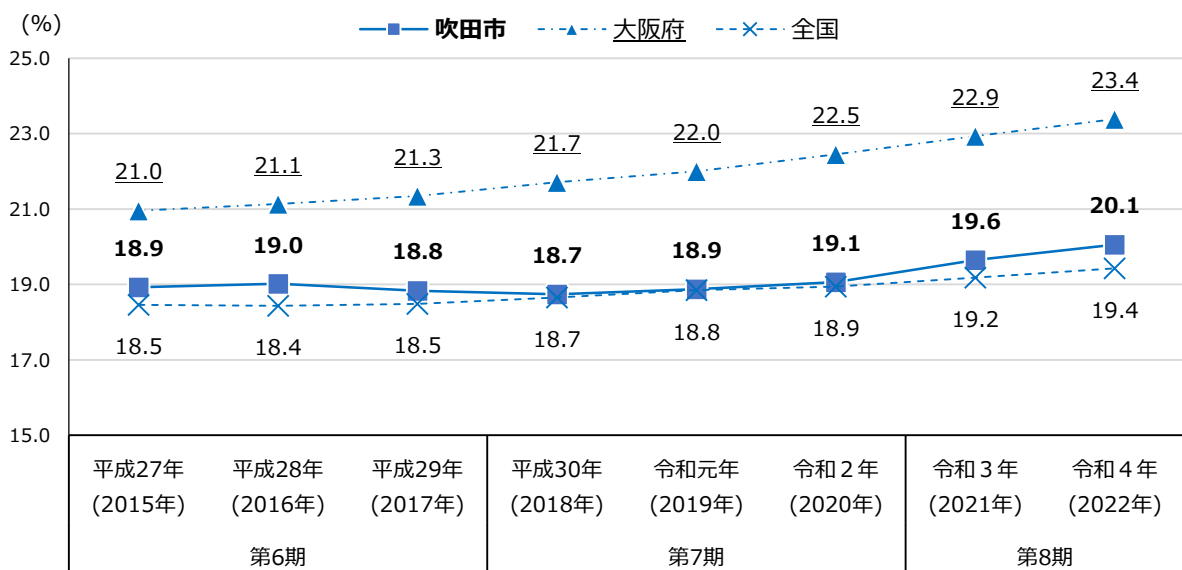
要支援・要介護認定率は令和4年で20.1%と、全国より高く、大阪府より低くなっています。

【要支援・要介護認定者の推移（第2号含む）】



資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

【要支援・要介護認定率の推移（第2号含む）】

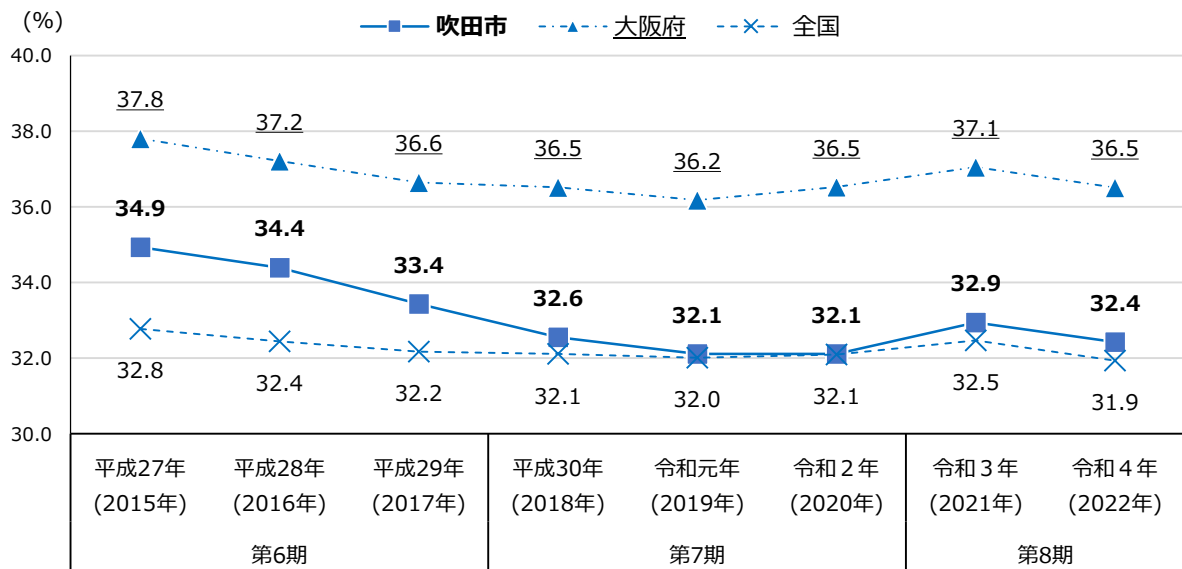


資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

後期高齢者の要支援・要介護認定者率は令和元年まで毎年減少していましたが、令和3年で一旦増加し、令和4年で再度減少しています。後期高齢者の要支援・要介護認定率は32.4%と、全国より高く、大阪府より低くなっています。

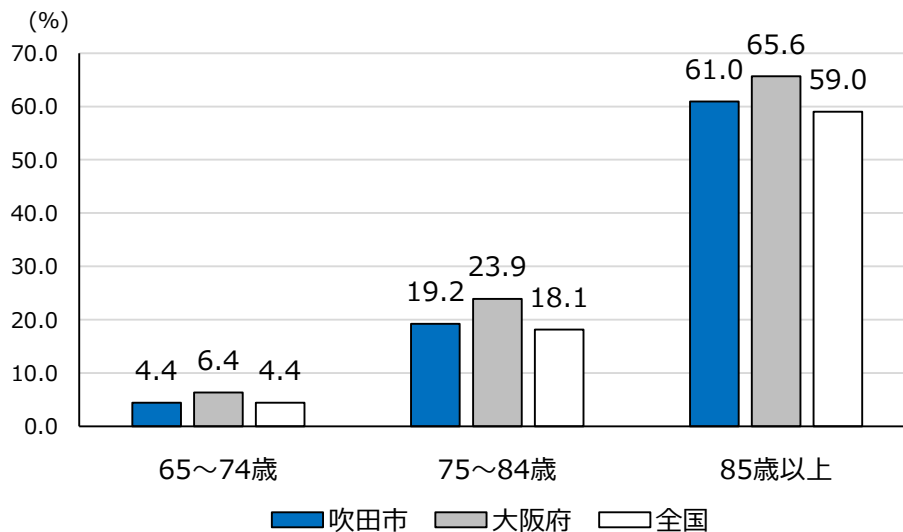
令和4年の要支援・要介護認定率を年齢別にみると、75～84歳は19.2%に対し、85歳以上では61.0%と、85歳以上になると要支援・要介護認定率は急激に上昇します。

【後期高齢者の要支援・要介護認定率の推移】



資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

【年齢別要支援・要介護認定率（令和4年）】



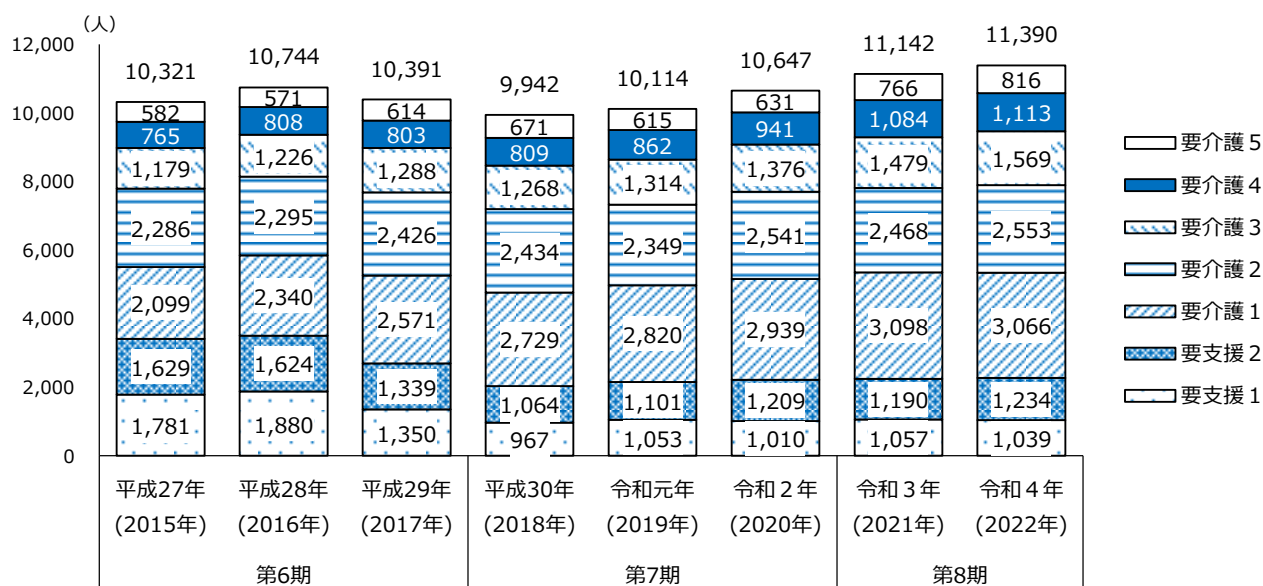
資料：介護保険状況報告（令和4年9月月報）

②居宅サービス受給者の状況

居宅サービスの受給者は、平成29年4月から介護予防訪問介護と介護予防通所介護が介護予防日常生活支援総合事業に移行したため、一旦減少しますが、その後は増加傾向にあり、令和4年で11,390人となっています。

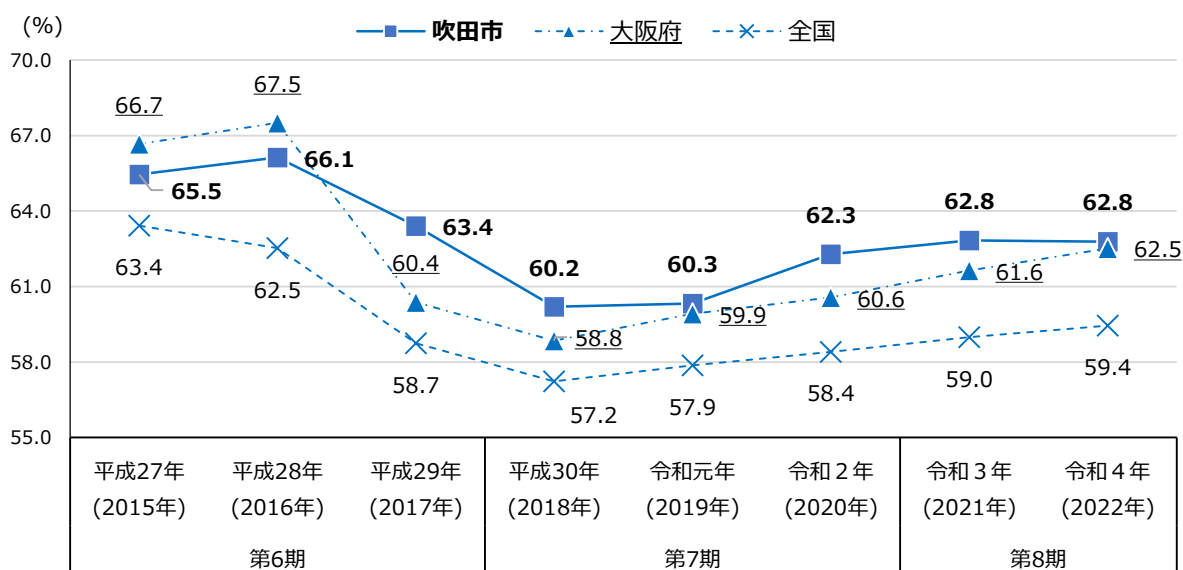
居宅サービス受給率は令和4年で62.8%と、全国より高く、大阪府とほぼ同じ割合となっています。

【居宅サービス受給者の推移】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報【9月利用分】）

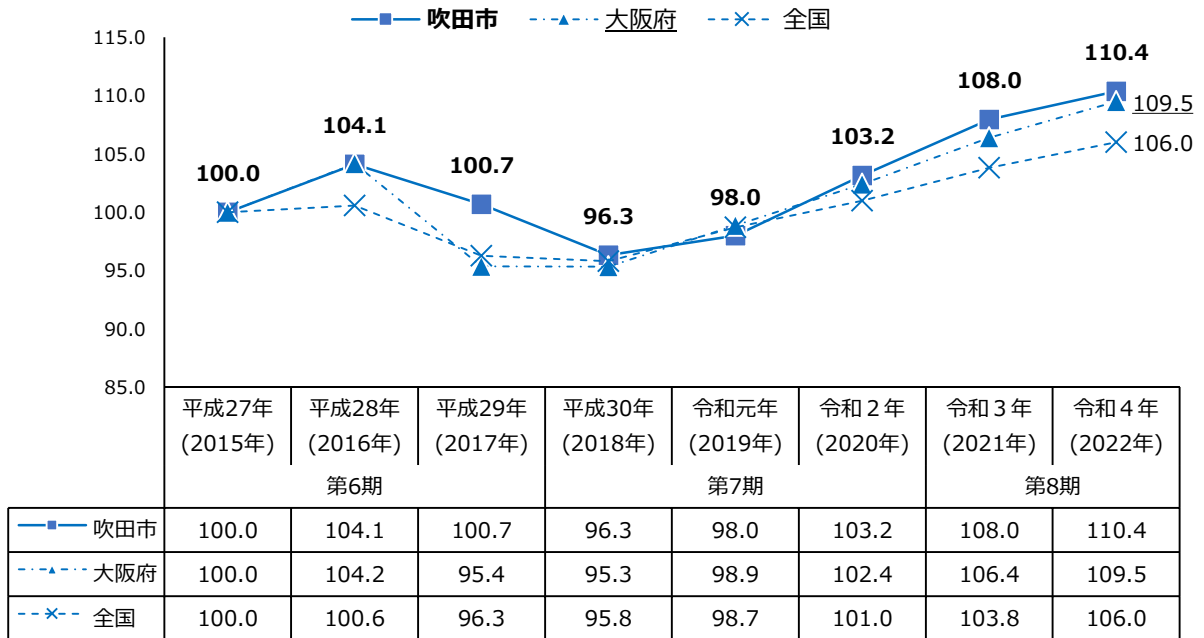
【居宅サービス受給率の推移】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報【9月利用分】）

平成 27 年を 100.0 とした居宅サービス受給者指数をみると、平成 30 年以降増加しており、令和 4 年で 110.4 と、全国・大阪府よりも上昇幅が大きくなっています。

【平成 27 年（2015 年）を 100.0 とした居宅サービス受給者指数】



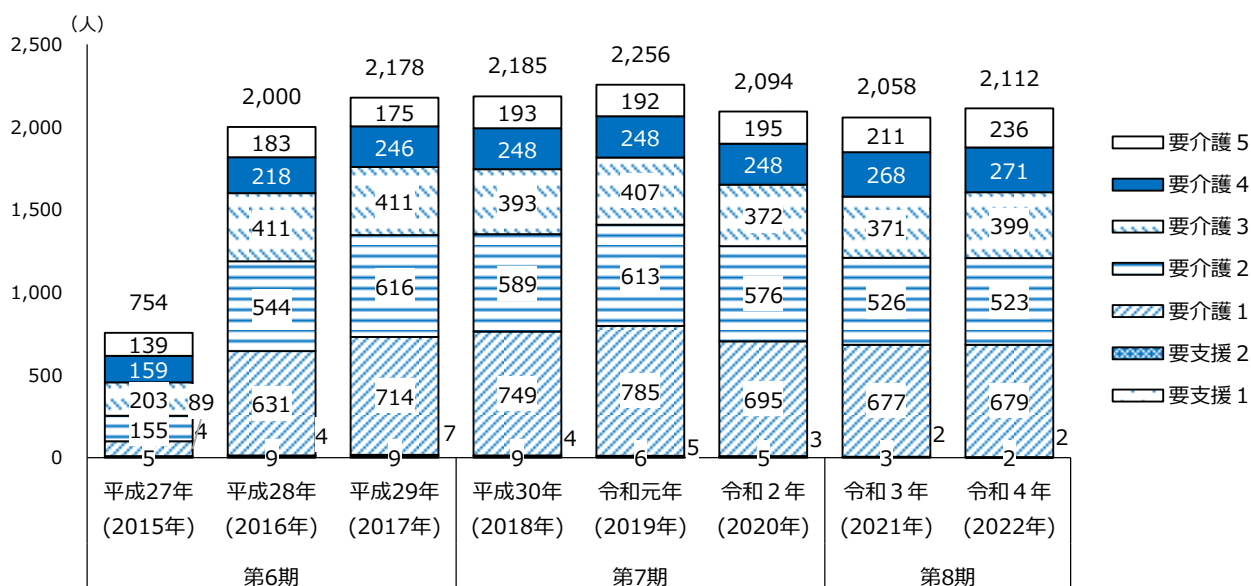
資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

③地域密着型サービス受給者の状況

地域密着型サービスの受給者は、平成28年4月から小規模の通所介護事業所が地域密着型サービスに位置づけられたため、平成27年から平成28年にかけて大きく増加します。平成28年以降は増減を繰り返しており、令和4年で2,112人となっています。

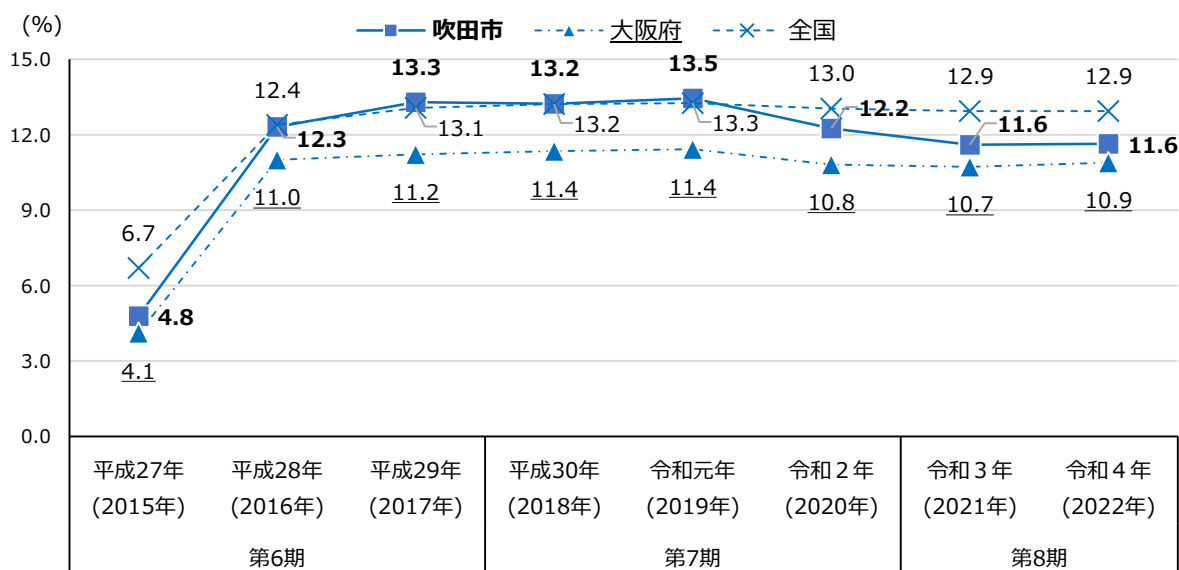
地域密着型サービス受給率は令和4年で11.6%と、全国より低く、大阪府より高くなっています。

【地域密着型サービス受給者の推移】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報【9月利用分】）

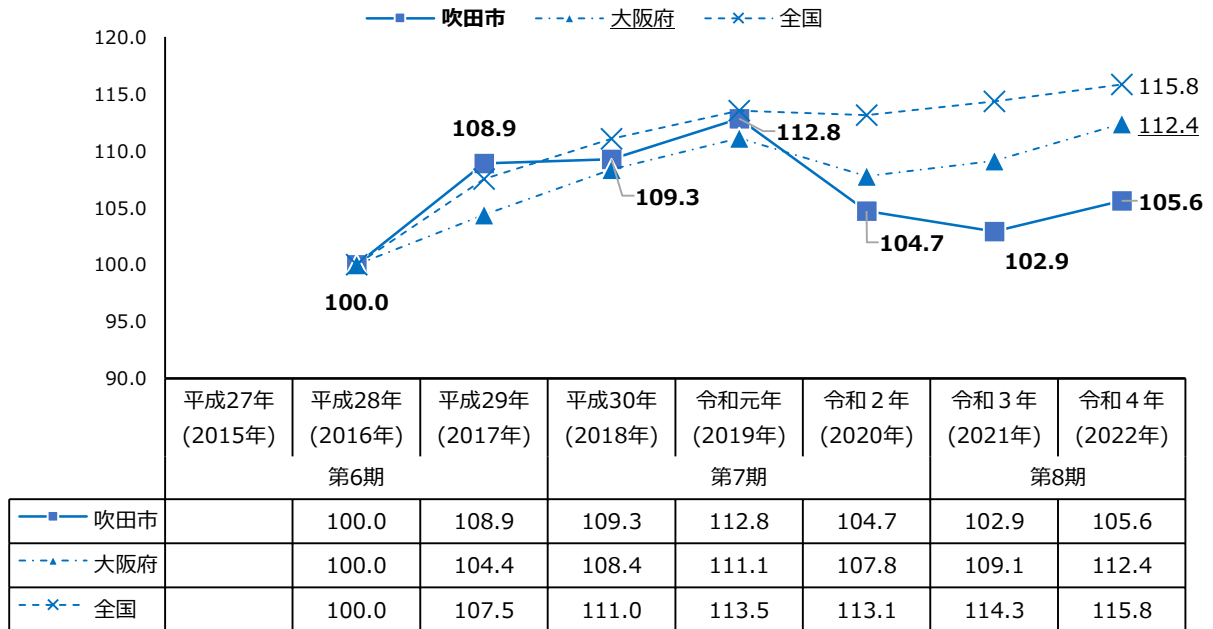
【地域密着型サービス受給率の推移】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報【9月利用分】）

平成 28 年を 100.0 とした地域密着型サービス受給者指数をみると、平成 30 年から平成から減少し、令和 3 年から令和 4 年にかけて再度増加します。令和 4 年で 105.6 と、全国・大阪府より低くなっています。

【平成 28 年（2016 年）を 100.0 とした地域密着型サービス受給者指数】



資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

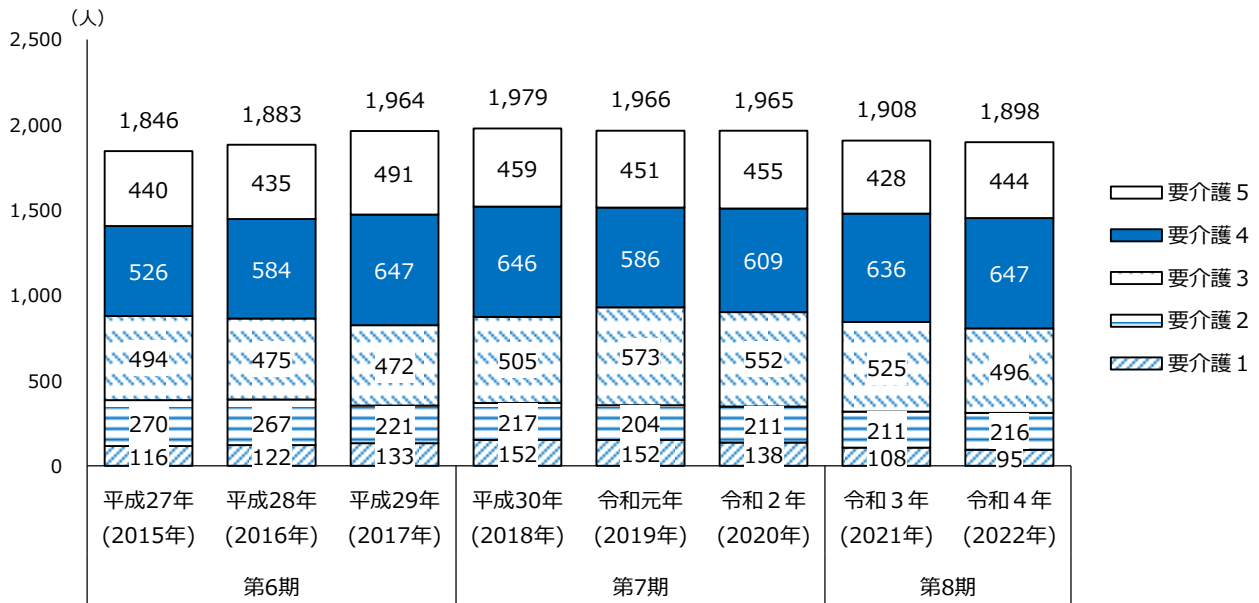
※平成 27 年から平成 28 年の上昇を加味した場合、上昇率が極端に大きいため、平成 28 年を 100.0 とし、算出。

④施設サービス受給者の状況

施設サービスの受給者は、各年で増減を繰り返していますが令和元年以降は減少傾向にあり、令和4年で1,898人となっています。

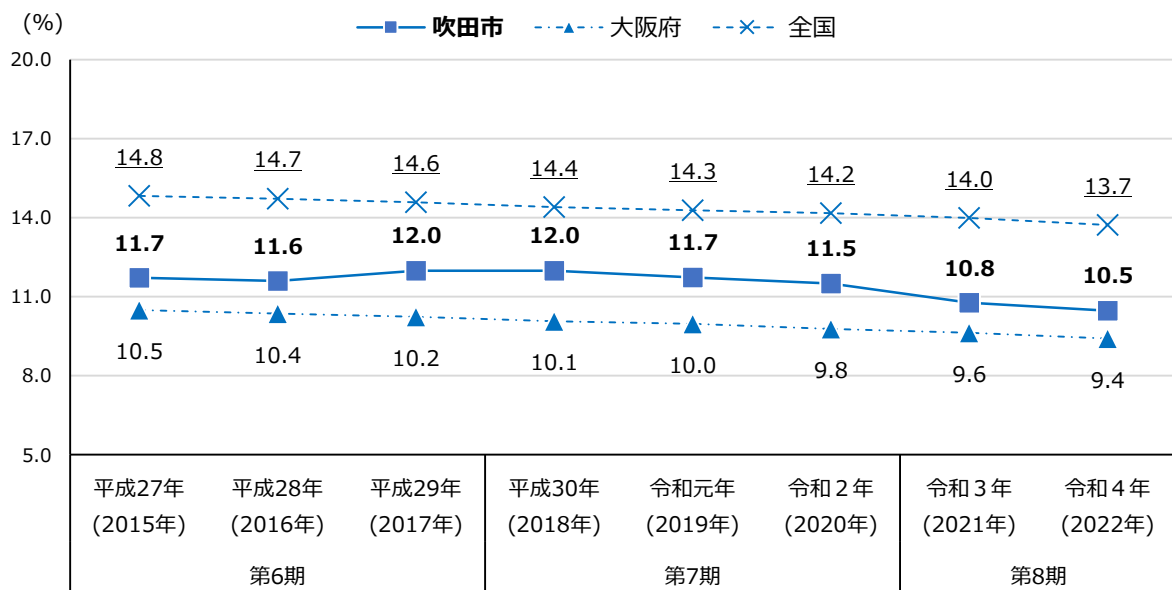
施設サービス受給率は令和4年で10.5%と、全国より低く、大阪府より高くなっています。

【施設サービス受給者の推移】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報【9月利用分】）

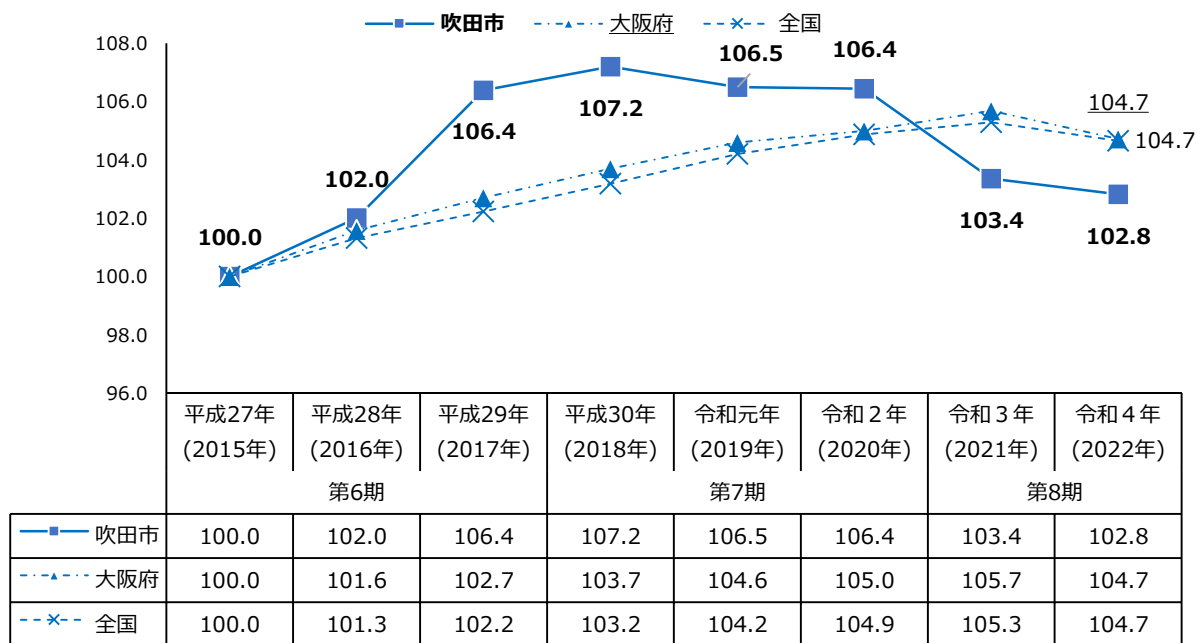
【施設サービス受給率の推移】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報【9月利用分】）

平成 27 年を 100.0 とした施設サービス受給者指数をみると、平成 29 年から令和 2 年まで全国・大阪府よりも指数が高くなっていますが、令和 3 年以降は全国・大阪府よりも低くなっています。

【平成 27 年（2015 年）を 100.0 とした施設サービス受給者指数】

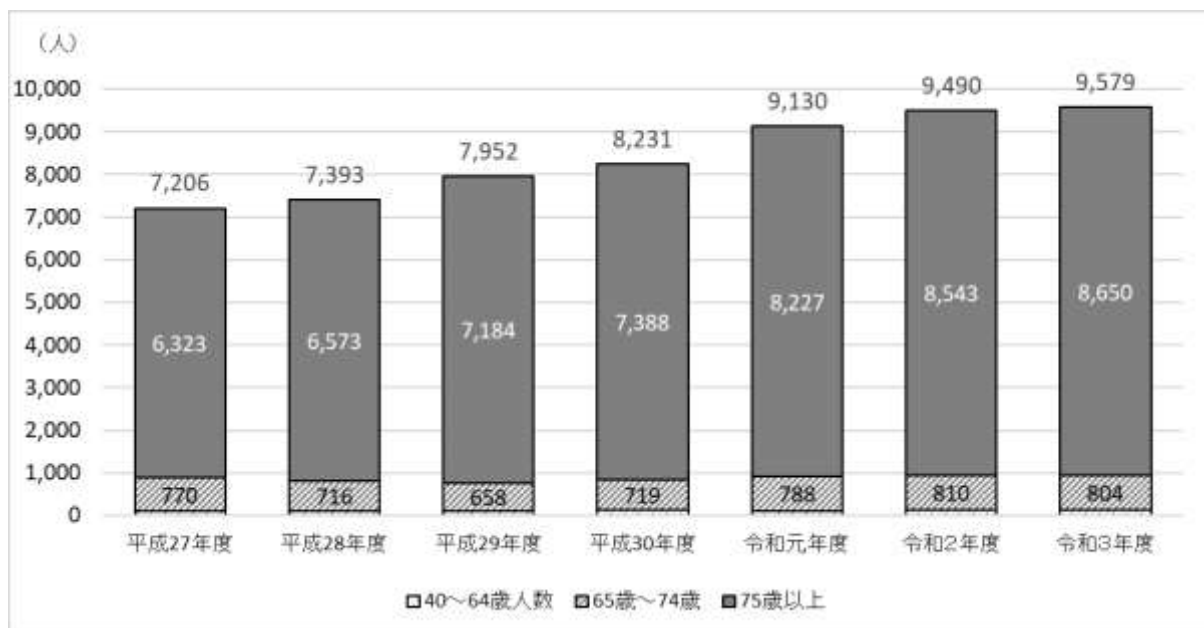


資料：介護保険状況報告（各年 11 月月報【9 月利用分】）

(5) 認知症の人数

① 認知症の人の推移

要支援・要介護認定者データをもとに認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の人数の推移をみると、増加傾向にあり、令和3年度では9,579人と平成27年度から2,373人増加しています。



資料：要支援・要介護認定者データ（各年度3月末現在）